

2009年度

科目名	ドイツ語Ⅱ				
担当教員	村田 美紀				
配当	文 2・教育2・人間2			コード	23040
開期	通年	講時	火曜日3限	単位数	2
授業テーマ	「ドイツ」に親しみ、ドイツ語の表現力と理解力を養う。				
目的と概要	一年次に学んだ基礎文法を踏まえ、実際にドイツ語を聴き、話し、読み、書くなかで表現力と理解力を養います。各場面で用いられるドイツ語表現を、主に対話形式の実践的練習を通して身に付けます。ドイツ語学習を通じてドイツ語圏の文化への関心を高めることを目的としますので、主体性を持って授業に臨むことが必須の条件となります。受講者一人一人が積極的に参加し、よい刺激を与え合って、自らの外国語学習を実りあるものにするための授業と位置づけます。				
成績評価法	前期末試験 + 学年末試験 50% 通年の受講状況(授業への参加姿勢、課題への取り組み、小テストの結果)50%				
テキスト	『アクティブに使うドイツ語』／三宅恭子・Michaela Koch共著／三修社				
参考書	独和辞典				
履修に当たっての注意・助言	<p>正当な理由なき遅刻は授業への妨害行為と見なされます。</p> <p>前期末試験の受験資格は前期の受講状況に基づいて判断されます。学年末試験の受験資格は、前期末試験受験者を対象に、後期の受講状況に基づいて判断されます。</p> <p>欠席や他の個人的理由による習得不足は、人一倍の自主学習によって補填されなければなりません。</p> <p>授業で使用する教科書、独和辞典、配付資料等は、常に自分自身で責任を持って管理すべきものです。授業への教材の不携行は、学習意欲の欠如の現れと見なされます。</p> <p>質問・疑問等はそのつど自分自身の言葉で発信して下さい。</p> <p>私語や居眠り等による怠慢はもちろんのこと、一切の消極的・受動的態度は授業進行の妨げになります。「出席」と「教室内に居ること」とは決して同義ではないことを肝に銘じて下さい。</p> <p>授業の趣旨に反する行為は、いずれも「履修放棄」の意思表示として処理されます。</p>				
講義計画					
<p>前期</p> <p>第1回 前期授業への導入 発音の基礎、あいさつ、数字</p> <p>第2回 紹介 一人と知り合う(1) →第1課</p> <p>第3回 紹介 一人と知り合う(2) →第1課</p> <p>第4回 紹介 一人と知り合う(3) →第1課</p> <p>余暇・趣味(1) →第2課</p> <p>第5回 余暇・趣味(2) →第2課</p> <p>第6回 余暇・趣味(3) →第2課</p> <p>第7回 家で(1) →第3課</p> <p>第8回 家で(2) →第3課</p> <p>第9回 家で(3) →第3課</p> <p>ショッピングセンターで(1) →第4課</p> <p>第10回 ショッピングセンターで(2) →第4課</p> <p>第11回 ショッピングセンターで(3) →第4課</p> <p>第12回 町で 一買い物(1) →第5課</p> <p>第13回 町で 一買い物(2) →第5課</p> <p>第14回 町で 一買い物(3) →第5課</p> <p>第15回 前期の総括</p> <p>後期</p> <p>第1回 後期授業への導入 食事(1) →第6課</p> <p>第2回 食事(2) →第6課</p> <p>第3回 食事(3) →第6課</p> <p>第4回 市場とレストランで(1) →第7課</p> <p>第5回 市場とレストランで(2) →第7課</p> <p>第6回 市場とレストランで(3) →第7課</p> <p>家族(1) →第8課</p> <p>第7回 家族(2) →第8課</p> <p>第8回 家族(3) →第8課</p> <p>第9回 スケジュール(1) →第9課</p> <p>第10回 スケジュール(2) →第9課</p> <p>第11回 スケジュール(3) →第9課</p> <p>第12回 過去の事柄(1) (→第12課)</p>					

第13回 過去の事柄(2) (→第12課)
駅で(1) (→第11課)
第14回 駅で(2) (→第11課)
第15回 一年の総括